

## 愛知県における標準化事業への取り組み

～サポート事業の取り組み～

◎伊藤 綾香<sup>1)</sup>、齊藤 翠<sup>2)</sup>、堀田 裕美<sup>2)</sup>、佐野 俊一<sup>2)</sup>、山内 昭浩<sup>2)</sup>、菊地 良介<sup>2)</sup>、岡田 元<sup>2)</sup>、中根 生弥<sup>2)</sup>

名古屋市立東部医療センター<sup>1)</sup>、公益社団法人 愛知県臨床検査技師会<sup>2)</sup>

### 【はじめに】

外部精度管理調査は、参加施設の施設間変動や、各施設における測定値の偏りを把握することを目的としている。しかし、愛知県臨床検査精度管理調査（愛臨技サーベイ）では、開始当初より調査によって得られたデータの把握に留まることなく施設間較差の是正を目的とした結果検討会を行っており、愛臨技サーベイにおいて評価の思わしくなかった施設に対するサポート事業に取り組んできた。近年では、県内各地区に基幹施設を設け、パッチワーク方式を実践することで各地区の標準化はもとより、県内全施設の標準化に取り組んできた。そこで今回、今までに実施されたサポート事業の一例を報告する。

### 【概要】

2004年、日本臨床検査標準協議会(JCCLS)により「臨床検査標準化基本検討委員会」が立ち上げられ、臨床検査の標準化体系を整備する活動が開始された。これを機に、愛知県では県内を7地区に編成し、各地区に基幹施設を設けるとともに基幹施設を中心としたパッチワーク方式を実践した。基幹施設は、全国的に展開された共有化事業によって、測定値の正確性および他県の基幹施設とのデータ整合性が確認されている。従って、県内各施設が基幹施設と測定値を一致させることは、国内の施設間差を是正することを意味する。

愛知県では、基幹施設担当者が結果検討会を通して担当地区内で精度管理調査結果が思わしくなかった施設に対応し、是正処置のサポートおよびデータ確認を行ってきた。

### 【取り組み】

基幹施設は自施設の精確性を維持管理するとともに、事業の一環として結果検討会へ参加し、担当地区内の参加施設へ技術・教育的支援を含むサポートを行っている。パッチワーク方式により各基幹施設にぶら下がる施設は、およそ20～50施設であり、愛臨技サーベイの結果に基づき、評価の思わしくなかった施設を抽出する。結果検討会では、各施設の検査状況についてディスカッションを行うことで改善すべき問題点を洗い出し、今後の対応や、日常検査への問題点について検討している。また、互いの合意が取れた場合には、施設に赴くことで実際に検査室の設備や環境を確認し、試薬管理等を含めた内部精度管理状況について把握することができる。

### 【まとめ】

結果検討会を通じてコミュニケーションをとることにより、精度管理調査より得られる情報以上のものが得られることもある。そして、それがよりよい改善策を導き出す手掛かりとなることもある。

また基幹施設担当者が施設を訪問し、技術的支援や情報提供を行ったところ、データの改善傾向が認められた。

以上のことより、施設間の関係性を深めることは情報共有に繋がり、施設間差是正の一助となると考える。